

### (3) 智頭急行株式会社経営状況報告書

#### 一 法人の概要

- 1 名 称 智頭急行株式会社
- 2 目 的 鉄道事業法による旅客の運送業及びこれに付帯又は関連する事業を営むことを目的とする。
- 3 設立登記年月日 昭和61年5月31日
- 4 資 本 金 450,000,000円(9,000株)
- 5 株 主
- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 鳥 取 県 | 152,500,000円(3,050株) |
| 兵 庫 県 | 60,000,000円(1,200株)  |
| 鳥 取 市 | 50,550,000円(1,011株)  |
| 岡 山 県 | 36,450,000円( 729株)   |
| 各市町村  | 89,300,000円(1,786株)  |
| 民間企業  | 58,500,000円(1,170株)  |
| 各 団 体 | 2,700,000円( 54株)     |
- 6 役 員
- 取 締 役 14人 監 査 役 2人
- 取 締 役 会 長 平 井 伸 治 (鳥取県知事)
- 取 締 役 副 会 長 吉 本 知 之 (兵庫県副知事)
- 取 締 役 副 会 長 木 幡 浩 (岡山県副知事)
- 代 表 取 締 役 社 長 岡 村 俊 作
- 代 表 取 締 役 常 務 玉 井 和 則
- 取 締 役 深 澤 義 彦 (鳥取市長)
- ” 吉 田 英 人 (八頭町長)
- ” 寺 谷 誠 一 郎 (智頭町長)
- ” 青 木 秀 樹 (西粟倉村長)
- ” 荻 原 誠 司 (美作市長)
- ” 庵 途 典 章 (佐用町長)
- ” 遠 山 寛 (上郡町長)
- ” 小 田 光 則 (株式会社山陰合同銀行取締役専務執行役員)

取締役 上杉雅彦（神姫バス株式会社代表取締役会長）

監査役 石田耕太郎（倉吉市長）

〃 和田長平（播州信用金庫理事長）

7 従業員 76人

8 事務所 本社 鳥取県八頭郡智頭町智頭2052番地1

運輸部 鳥取県八頭郡智頭町智頭2052番地2

大原事業所 岡山県美作市古町1550番地2

## 二 平成26年度事業実施状況

### 1 営業の概要及び成果

輸送の安全確保を最重要課題として全社員が一丸となって取り組み、無事故で終了した。

特急列車の利用状況は、JRや旅行代理店と連携した商品の販売や、各種イベント、キャラバンの実施、また、開業20周年記念を全面に打ち出した活動や「恋駅プロジェクト」をマスコミを通じて全国発信するなどして積極的なPR活動を行ったが、依然として減少傾向に歯止めがかからず、結果としてほぼ前年並みとなった。

#### (1) 列車利用状況 (単位：人、%)

区分	当期	前期	増減数	前期比	主な要因
スーパーはくと	600,821	601,816	△ 995	99.8	鳥取自動車道の影響 景気の回復など
スーパーいなば	248,141	241,417	6,724	102.8	
特急列車 計	848,962	843,233	5,729	100.7	
普通列車	217,800	211,739	6,061	102.9	20周年事業

#### (2) 収支状況

##### ① 主な収入 (単位：千円、%)

区分	当期	前期	増減額	前期比	主な要因
旅客運輸収入	1,300,831	1,312,696	△ 11,865	99.1	客単価の減
運輸雑収入	1,453,035	1,487,079	△ 34,044	97.7	車両使用料の減
営業収益 計	2,753,866	2,799,775	△ 45,909	98.4	

##### ② 主な費用 (単位：千円、%)

区分	当期	前期	増減額	前期比	主な要因
修繕費	733,721	797,751	△ 64,030	92.0	検査車両数の減
動力費	407,218	401,443	5,775	101.4	
減価償却費	288,287	326,118	△ 37,831	88.4	
営業費用 計	2,406,046	2,516,576	△ 110,530	95.6	

#### (3) ダイヤ改正の実施

平成27年春のダイヤ改正を3月14日に実施し、JR線との列車の接続の調整により列車ダイヤの微調整などの見直しを行った。

#### (4) 安全対策の実施状況

経営トップと現場が一体となって安全を最優先とする職場風土の構築に向けて安全を更に確かなものとするため、関係法令等の勉強会実施などによる法令等の理解と遵守を深め

た。

また、トンネル内火災や事故などを想定した異常時対応訓練の実施や、安全推進委員会を毎月開催し、鉄道事故防止に関する事項について徹底した議論を行った。そして、安全に係わる内部監査も実施し、P D C Aサイクルを管理、徹底するなど、引き続き安全管理体制の構築に取り組んだ。

#### (5) 企画きっぷの発売状況

「東京往復割引きっぷ」、「京阪神往復割引きっぷ」、「広島往復割引きっぷ」及び「岡山往復割引きっぷ」の発売状況は、京阪神、東京方面は前年比97.6%の減となったが、岡山・広島方面は105.6%と増加した。

また、京阪神、岡山・広島方面からの誘客を図るため「かにカニ日帰りエクスプレス」を御利用のお客様に、引き続き日本海の干物セットをプレゼントする企画を実施し、また、「20周年1日フリーきっぷ」での自由席特急列車利用や、「定期券用自由席回数特急券」を発売するなど、利用者の増加を図った。

普通列車については、「20周年1日フリーきっぷ」、シニア向けの「楽ラクきっぷ」、恋山形駅と平福駅とを結ぶ記念切符「恋福きっぷ」の発売や観光バスと連携した「ちよい乗り」の駅窓口等での口コミPRに取り組むとともに、沿線市町村や智頭線利用促進協議会と連携して引き続き普通列車の利用者拡大に努めた。

#### (6) 利用促進に向けた広告宣伝等の実施状況

特急列車の利用促進については、開業20周年記念の広報宣伝やJRや自治体等と連携した京阪神でのキャラバン、姫路駅でのイベントを実施し、多くのお客様に「かに」、「温泉」及び「スーパーはくと」の魅力をPRした。

また、三朝温泉開湯850年と連携した旅行代理店の商品の造成など、京阪神や鳥取等での誘客や送客活動に取り組んだ。

普通列車についても、開業20周年を記念した様々なイベント列車や沿線自治体と連携した臨時貸切列車の運行、更には利用促進や地域の活性化に資するよう沿線自治体主催のイベントに積極的に参加し、一層のPR活動を行った。

全国的に知られるようになった恋山形駅については、自治体や関係会社と連携した「バレンタイン列車」や様々なイベント列車の運行など、「恋駅プロジェクト」に取り組んだ結果、全国のマスコミを含め、年間200回以上マスコミに取り上げられた。

また、四季折々の「風鈴列車」、「七夕列車」、「クリスマス列車」及び「おもちゃ列車」の運行で地域住民に智頭線を知って乗ってもらう取組を進めた。

## 2 設備投資及び資金調達の状況

主な設備投資とその金額は次のとおりであり、全て自己資金で対応した。

・液体変速機（特急車両用16台）	82,840千円
・車両用エンジン（特急車両用2台）	9,440千円
・自動列車停止装置更新（佐用駅）	30,310千円
・デジタル無線機（特急車両用3台）	13,665千円
・PLC盤取替（特急車両用6台）	14,007千円
・接客設備改良工事（特急車両7両）	62,930千円
・光搬送装置更新	52,600千円
・座席取替（特急車両4両）	29,948千円

**智頭急行株式会社**  
**損益計算書**

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
	円	円	円	
I 鉄道事業営業利益				
1 営業収益	2,753,866,039	2,799,774,591	△ 45,908,552	
(1) 旅客運輸収入	1,300,830,869	1,312,695,492	△ 11,864,623	
(2) 運輸雑収入	1,453,035,170	1,487,079,099	△ 34,043,929	
2 営業費用	2,406,045,973	2,516,575,737	△ 110,529,764	
(1) 運送費	1,924,797,544	1,978,954,948	△ 54,157,404	
(2) 案内宣伝費	19,180,714	29,331,864	△ 10,151,150	
(3) 厚生福利施設費	1,630,868	1,485,028	145,840	
(4) 一般管理費	107,557,781	111,521,956	△ 3,964,175	
(5) 諸税	64,591,886	69,164,418	△ 4,572,532	
(6) 減価償却費	288,287,180	326,117,523	△ 37,830,343	
営業損益	347,820,066	283,198,854	64,621,212	
II 営業外収益	15,819,070	15,946,035	△ 126,965	
1 受取利息	12,868,596	9,520,285	3,348,311	
2 雑収入	1,259,249	3,472,941	△ 2,213,692	
3 業務受託料	1,691,225	2,952,809	△ 1,261,584	
III 営業外費用	7,443,487	10,640,933	△ 3,197,446	
1 支払利息	3,894,548	5,175,978	△ 1,281,430	
2 繰延資産償却	1,670,324	1,838,795	△ 168,471	
3 雑支出	187,390	673,351	△ 485,961	
4 業務受託経費	1,691,225	2,952,809	△ 1,261,584	
経常損益	356,195,649	288,503,956	67,691,693	
IV 特別利益	32,156,343	325,008,852	△ 292,852,509	
V 特別損失	3,031,106	275,775,309	△ 272,744,203	
税引前当期利益	385,320,886	337,737,499	47,583,387	
法人税等	130,695,200	131,365,300	△ 670,100	
当期純利益	254,625,686	206,372,199	48,253,487	







### 三 平成27年度事業計画

安全を最優先とする意識の定着を図るため、鉄道事業の最大の使命は「輸送の安全確保」であることを再認識し、引き続き経営トップ及び全管理職社員自らが現場に出向き、現場との一体感を醸成するなど、より強固な安全管理体制を築く。また、社員全員で法令・規程の遵守及び執務の厳正を更に徹底する。

鉄道施設の経年老朽化については、線路巡回等の強化や構造物検査によって修繕等の措置が必要なものについては、安全に支障が生じないように、中期経営計画に沿って必要な措置を講じる。

また、安全の確保は人材育成であることを踏まえ、引き続き世代交代に備えての個々人の知識、技術・技能の向上及び継承の推進に努める。

今年度は北陸新幹線開業に伴う観光客等の減少による収入の減少や、鉄道施設の老朽化対策など、一層厳しい環境になることが想定される。このため、お客様のニーズを踏まえた特急スーパーはくとの接客設備の改良やJRや旅行代理店と連携した旅行商品の造成、自治体や関係団体等と連携した誘客、送客活動、そして、情報発信を積極的に行うなどして、より多くの方々に智頭線並びにスーパーはくとに乗って知ってもらえるような取組を行う。また、姫路城の改修が終了したことに伴い、播磨地方などの注目度も増しているため、JR等と一緒に情報発信等を積極的に行い、送客につなげる。

普通列車については、昨年度に引き続き、「恋駅プロジェクト」を中心としたPR活動や沿線自治体と連携した利用促進や域外からの誘客のための取組を一層進める。

また、経年に伴う土木構造物の修繕などを計画的に行うとともに、原油価格の高止まりや費用増加等に対応するため、引き続き事業の効率化や経費節減等に努める。

#### 〔重点実施項目〕

安全最優先で、顧客重視とスピード感とコスト意識をもって、以下に取り組む。

- (1) 安全意識を更に高揚させるため、個人面談、アンケート等を通じて安全意識の向上を図るとともに、ヒヤリハット、気がかり事象の啓蒙を行い、その分析や対策を徹底して行うことで事故の芽を摘み取る。

社員の知識、技術・技能の向上及び継承の推進を行うため、個人レベルの把握に努め、それに沿った教育計画を策定するとともに、教育研修機関を積極的に利用し、基礎技術の習得及び技術のレベルアップに努める。

規程の遵守と整備を徹底させるため、遵守すべき規程の定期的な点検を行うと同時に、見直しが必要なものは計画的に見直しを行う。

- (2) 列車の安全運行確保のための計画的な設備投資、更新及び修繕を実施する。施設については、高架橋や橋りょう、トンネルなどの修繕、ATS-P装置などを順次、更新する。車両については、従来からの検査に加え、エンジン、液体変速機、PLC盤等の更新やお客様から多くのニーズが寄せられている授乳室やオムツ交換などができる多目的室や大型荷物置場の整備、トイレの改良やコンセントの増設などを引き続き実施する。
- (3) 鳥取自動車道全線開通による影響をできる限り少なくするため、JR等と共同で企画切符などの商品造成や、京阪神・鳥取等での宣伝活動及び情報発信を強化し、利用者を確保する。
- (4) 普通列車の利用促進を行うため、智頭線独自の切符の開発、沿線自治体や関係団体との連携によるイベントの開催及び域外からの誘客活動に取り組むとともに、イベント列車の運行によって智頭線を知って乗ってもらう取組を強化する。
- 恋山形駅を活用した「恋駅プロジェクト」などの事業を引き続き実施し、智頭線の新たな魅力を開発し、誘客につなげる。
- また、利用状況の調査分析を行い、運行のあり方について検討を行う。
- (5) 社員の知識技術の向上などの人材育成に力を入れ、一人ひとりが能力を発揮できる取組を進めるとともに、意識改革や業務効率化等に一層取り組み、足腰の強い会社づくりを行う。

(3) 智頭急行株式会社

株主資本等変動計算書

個別注記表

# 株主資本等変動計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

	株主資本										新株予約権	評価・ 換算差額等	株主資本合計	純資産合計	
	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計	純資産合計					
	資本金	資本剰余金		別途積立金	利益準備金	その他利益剰余金									自己株式
		資本準備金	その他資本剰余金			固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金								
前期末残高	450,000,000	0	0	2,700,000	2,200,000,000	1,650,000,000	215,913,045	0	4,518,613,045	0	0	4,518,613,045	4,518,613,045		
当期変動額															
剰余金の配当												0	0		
剰余金の配当に伴う利益準備金の積立て												0	0		
積立金の積立					80,000,000	130,000,000	-210,000,000					0	0		
役員賞与の支給												0	0		
過年度税効果調整額												0	0		
当期純利益							254,625,686					254,625,686	254,625,686		
当期変動額合計	0	0	0	0	80,000,000	130,000,000	44,625,686	0	254,625,686	0	0	254,625,686	254,625,686		
当期末残高	450,000,000	0	0	2,700,000	2,280,000,000	1,780,000,000	260,538,731	0	4,773,238,731	0	0	4,773,238,731	4,773,238,731		

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法

##### ② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法

#### (2) 固定資産、繰延資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産

定率法を採用しています。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物については  
定額法を採用しています。

##### ② 無形固定資産

定額法を採用しています。

##### ③ 繰延資産

法人税法の規定による定額法を採用しています。

#### (3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しています。

### 2. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額	10,379,468,321円
----------------	-----------------

### 3. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数	9,000株
--------------------------	--------

### 4. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たりの純資産額	530,360円
----------------	----------

(2) 1株当たりの当期純利益	28,292円
-----------------	---------